

指導要録における

道徳科の評価(学習状況及び道徳性に係る成長の記録)について

1 道徳科の評価は、指導要録様式2(指導に関する記録)に記載します

	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)
小学校	中学校2019年度に同じ	新しい指導要録(様式2)の表面「特別の教科 道徳」の評価欄(学習状況及び道徳性に係る成長の様子)に記載する。	
中学校	現行の指導要録(様式2)の裏面「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に、項目(例「特別の教科 道徳」)を設けて記載する。		小学校2020年度以降に同じ

注意

道徳科の評価は、調査書には記入しません

2 特に、以下の評価のポイントに基づいて記述式で記載します

評価のポイント	ふさわしくない記載例	解説
個々の内容項目(主題)ではなく、大きくくりな(学期など一定の期間)まとまりで評価する。	礼儀の授業では、役割演技を行い、実感を基に、礼儀の大切さについて全体に発表していた。	1時間の授業で見取れた姿のみで評価していますね。 (記載例①参照)
道徳科の授業における学習状況や道徳性に係る成長を認め励ます個人内評価となるようにする。	廊下ですれ違う際に、誰とでも分け隔てなく、立ち止まって丁寧にあいさつをしていた。	授業外で見受けられる姿で評価していますね。 (記載例②～⑥参照)
発言や記述が苦手な児童生徒や発達障がいのある児童生徒に対しては評価上の配慮を行う。	忘れ物をすることなく、いつも落ち着いた態度で真剣に授業に取り組んでいた。	参加状況のみで、道徳科の学習についての評価になっていませんね。 (記載例⑦参照)

指導要録への記載例(道徳科における学習状況及び道徳性に係る成長を見取り評価する)

- ① 授業で学んだ道徳的価値を今後の自分自身の生活にどう生かすのかを場面を捉えて具体的に記述していた。
- ② 道徳的な問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から考えようとしていた。
- ② 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしていた。
- ③ 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしていた。
- ④ 道徳的な問題に対する自己の判断について他者と議論する中で、道徳的価値の理解を深めていた。
- ⑥ 道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしていた。
- ⑦ 友達の意見を聞きながら聞くなど、道徳的な問題場面でとるべき行為について考えていた。